研究機関名:東北大学
受付番号: 2016-1-887
研究課題名
肺移植例における非結核性抗酸菌症とアスペルギルス症の検討
実施責任者(所属部局・分野等・職名・氏名):
東北大学病院 呼吸器外科 助教 松田安史
研究期間 西暦 2017年 3月(倫理委員会承認後)~ 2019年 9月
対象材料
□過去に採取され保存されている人体から取得した試料
□病理材料(対象臓器名:) □生検材料(対象臓器名:)
□血液材料 □遊離細胞 □その他()
■研究に用いる情報
■カルテ情報 □アンケート □その他()
対象材料の採取期間:西暦 年 月~西暦 年 月
対象材料の詳細情報・数量等:
(対象疾患名や数量等の詳細を記すこと。多施設共同研究の場合は、全体数及び本学での数量等を記すこと。)

肺移植患者のうち、術前及び術後に非結核性抗酸菌症及びアスペルギルス症の症例が対象とな る。東北大学で肺移植を行った症例のうち 10 名ほどが対象となる。カルテ情報から、呼吸機 能検査、生化学検査、胸部 CT やレントゲン写真、培養検査結果など臨床経過を用いる。

研究の目的、意義

肺移植術前及び術後における抗酸菌感染症及びアスペルギルス感染が、肺移植後の経過や予後 に影響を与えるかどうかを明らかにすることを目的とする。

肺移植前後の非結核性抗酸菌症と肺アスペルギルス症の感染頻度やその転帰を検討することに より、肺移植による非結核性抗酸菌症や肺アスペルギルス症の悪化や治療のリスクを検討する ことができる。それにより、今後肺移植を受けるために肺移植待機登録を行う患者に対して、 非結核性抗酸菌症と肺アスペルギルス症感染のリスクを説明することができる。

実施方法

東北大学で行われた肺移植患者のカルテを用いて、血液生化学検査、呼吸機能検査、病歴、肺 移植手術時の手術に関するデータ、術後経過等の結果をまとめて、統計学的手法を用いて検討 する。

研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手・閲覧方法

研究対象者は希望のある時にたの研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に師匠がない 範囲内に限り研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手または閲覧できる。入手法は研究 代表者に E-mail 等で連絡する。

個人情報の利用目的の通知に関する問い合わせ先

保有個人情報の利用目的の通知に関するお問い合わせ先:「本研究に関する問い合わせ・苦情等の窓口」 ※注意事項

以下に該当する場合にはお応えお応えできないことがあります。

- <人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 第6章第16の1(3)>
- ①利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、研究対象者等又は第三 者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合

②利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、当該研究機関の権利又 は正当な利益を害するおそれがある場合

個人情報の開示等に関する手続

本学が保有する個人情報のうち、本人の情報について、開示、訂正及び利用停止を請求することができます。 保有個人情報とは、本学の役員又は職員が職務上作成し、又は取得した個人情報です。

1) 診療情報に関する保有個人情報については、東北大学病院事務部医事課が相談窓口となります。詳しくは、下記ホームページ「配布物 患者さまの個人情報に関するお知らせ」をご覧ください。(※手数料が必要です。)

【東北大学病院個人情報保護方針】http://www.hosp.tohoku.ac.jp/privacy.html

2) 1)以外の保有する個人情報については、所定の請求用紙に必要事項を記入しを情報公開室受付窓口に提出するか又は郵送願います。詳しくは請求手続きのホームページをご覧ください。(※手数料が必要です。)

【東北大学情報公開室】http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kokai/disclosure/index.html

※注意事項

以下に該当する場合には全部若しくは一部についてお応えできないことがあります。

- <人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 第6章第16の2(1)>
- ①研究対象者等又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- ②研究機関の研究業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合
- ③法令に違反することとなる場合

本研究に関する問い合わせ・苦情等の窓口

東北大学病院 呼吸器外科

研究代表 松田安史 yasushi.matsuda.d1@tohoku.ac.jp